



^ 13
2905
7止



樂亭西馬作 六編

稻妻形怪鼠標子 出板

一勇齋國芳画 七編

比異 二個  八

一壽齋國貞画 四編 五編

文久元年辛酉孟春新刻

芳紅美 國貞画

種 字 清 鉢 全編後切

壽笑亭笑壽作 五編

與謝武郎戀夜話

一壽齋國貞画 六編

錦昇堂

心志

嘘偽り 假寐七編叙

世に虚言といふもの世に人の情を所且虚言

よして家園を動乱さする基となり者虚言を人を教へ或人の和合の中成り裂く密巧を考る者

阿の今聖代よりさほとの如く虚言といふ世

渡りするもの佛の虚言方便といふ無家の虚言

智略といふ商人本錢が切きるといふ虚言

よく味知あじわその餘よそあ嘶う家講けこう叙少じせう見みて来きてやうる
虚言うそ我われ吐つき虚言うそをなすれば面白おもしろくは流ながる者もの
年としと歳さいふれ新あらた板いた封ふう切きと看みまる冊さくふらみふ
虚言うそは嘘うそ張はちを鐘かね倉くら時とき代しろ所ところ將軍しやうじん花はなの流なが所ところ
と交まじりしての嘘うそならば奏そう中ちゆう一いち枚まい半はん楮ちゆも嘘うそならぬ
可よく知しる物ものと嘘うそと知しりて看み官くわん衣いまは條じょうの流ながる
修しゆ馬ば藤とうのう雷らいのう笑わらひを合あはればは是これを
禮らい者もののう名な人にん上じやうのう名な又また負おへる他た者もののう教きやう向むかひ
何なにとも今いま余よのう輩たいのう纏まとひを知しるは流ながるは世よにも
人ひと法ほふ可よ嘆なげと見みせる人ひと保たもつは一いち本ぽんとなる
此このう身みをもたしては又またあらうは好このまる鳥とりのう手てのう郷きやうを
歸かへ幅はふもい燕えん余よのう教きやうをも入いりぬるは流ながるは

拙著 堂先家 誌

禮者らいの名な人にん上じやうのう名な又また負おへる他た者もののう教きやう向むかひ
何なにとも今いま余よのう輩たいのう纏まとひを知しるは流ながるは世よにも
人ひと法ほふ可よ嘆なげと見みせる人ひと保たもつは一いち本ぽんとなる
此このう身みをもたしては又またあらうは好このまる鳥とりのう手てのう郷きやうを
歸かへ幅はふもい燕えん余よのう教きやうをも入いりぬるは流ながるは

行路難非水
非山只在人
情反覆間

於那跡
於那跡
於那跡



宅め

旅

目

与

思ひ

日

名目と
せん



大多屋の子
於那跡



旅人の衣は竹やぶの
尾との月
様さけよ
あり
経年

鳥吉が
宇太郎

万葉

年のそふか

いそ

いそ

流の

浪

浪

大伴金村



雪^{ゆき} 麻^{あし} 通^{とほ}

嵯峨乃假寐卷之十九

東都

松亭金水編次

昭和九年七月五日 珠末

第三十七回

あつそ女と一々の嫉妬とまゝの編りて執着するもの。海あり。さざなみ世間の比賣遠も。あ己が心よ。その中なる。海へあたらうと物毎よその身を頼るふれが。多く過あまざり。あたら人と契暖さ。あたらも。あつそ。治まらざり。あつお橋のその生息も。通。うらぬのそ。





美水四郎義理
ゆふあがろく
お珍勢ふ別ん
こもぞ
だんせ

美水四郎



かやま



笑水四郎

黄昏の
まがれ
家
まがれ



